あなたに夢と希望を届けたい！

～中学校での読み聞かせの試み～

伊勢崎市立第三中学校　北郷の会　代表　成田　理恵

1　はじめに

「中学生に読み聞かせですか!?」「中学生に絵本ですか!?」「生徒はちゃんと聞いているのですか?!」…中学校で読み聞かせをしている事を人に話すととても驚かれ、しばしばこんな質問をいただきます。「中学生だからこそ読み聞かせをしているのです」と答えていますが、その思いは中学校で読み聞かせを続けるうちにますます強くなり、多感な時期の子どもたちにこそ伝えたい思いがある事を実感しながら活動を続けています。

２　「北郷の会」の組織・目的

(1)組織

私たち「北郷の会」は、伊勢崎市立第三中学校で絵本の読み聞かせや朗読を続けているボランティア団体です。「北郷の会」は地域内の小学校で読み聞かせをしているボランテイアの声かけをきっかけに発足しました。現在メンバーは 22 名で、子どもが第三中学校に通っている保護者 5 名、卒業生の保護者 9 名、地域の方 8 名です。年齢は 30 代から 70 代までで、職業も会社員、主婦、市議会議員と様々です。

(2)目的

発足当時のボランティア紹介資料には、次のような文章が残っています。

～とても忙しい中学校の三年間。やれ部活、やれ進学と、忙しくストレスの多い生活を送っている子どもたちにこそ「読み聞かせ」だと思うのです。もうすぐ大人になる「心」を育てるにはこの時期だと思うのです。「思いやり、優しさ、感謝」、そんな簡単な事だけれど、それができない子どもたちもいるのです。そしてもう一つ、「命の大切さ」をわかって欲しい。「あなたはこの地球に生まれた、大切なかけがいのない存在」という事をわかって欲しいと思っています。小学生の時は、たくさんの本を学校や家庭で読んでもらえますが、中学生になると景色は一変して自分で読むしかありません。そこで、私たちは中学校で読むことにしました。私たちが読み聞かせをすることで、少しでもこれからの人生を歩んでいく糧(力)になればと思っています。～

ノンフィクション作家の柳田邦男さんは、「絵本は幼い子のため、絵を補って読ませるものだ、というのは誤った考えです。絵本作家はいろいろなことを絵本の中に潜ませて

表現しています。人が生きる上で大切なものは何かといった深いものを、人生経験や年齢が高まるにつれて読み取れるようになってくる。そういう可能性を秘めているのが絵本です。」と講演で述べておられました。私たちは、私たちの大好きな絵本を伝え、その事が少しでも子どもたちに役立てば…との思いでボランティアを続けています。

３　これまでの取り組み

(1)足跡

「北郷の会」は平成１８年１１月に発足しました。当時、県内には中学生を対象に読み聞かせ活動をしている団体がほとんどなく、手探りの中でのスタートでした。当時のメンバーは９人。学校側に依頼するに当たり、最初は時間、内容、形態について、どのような聞き方や読み方が望ましいのか、学習の妨げにならない実施時間や回数等、様々な課題がありました。それでも、学校側は時間を作り、年間行事予定になかった「読み聞かせ」を快く受け入れてくれました。現在は、学期ごとに一学年ずつ読み聞かせをしています。１年生には「中学読み聞かせのはじめまして」ということで一学期に、進路選択で忙しくなる３年生は二学期に、２年生には三学期に行います。発足当初は、1 年から順に各学年 5 回ずつで特別支援学級はゼロでした。現在は各学年 6 回ずつ、2 クラスある特別支援学級においては全学期で 18 回行っています。時間は木曜日の朝 8 時 25 分から 8 時 40 分の 15 分間。年度初めにメンバーと学校側とで打ち合わせをして日程を決めます。学校行事があるときや、テスト一週間以内は予定から外し、なるべくゆったりした気持ちで聞いてもらえるようにしています。学校行事等をふまえ、代表者が学期ごとに担当表を作成します。参加メンバーも個性豊かで、幼稚園や小学校で読み聞かせを経験した方、地域の朗読サークルの有志の方、また、中学での読み聞かせに賛同し新たに参加してくださった方など様々です。読むものは絵本や紙芝居の他に、小説、伝記の抜粋の朗読など多岐にわたっています。ボランティア個々の思いや得手不得手等もあるので、各自が自分で読むものを準備して実施しており、全員で同じものを読むことは行っていません。

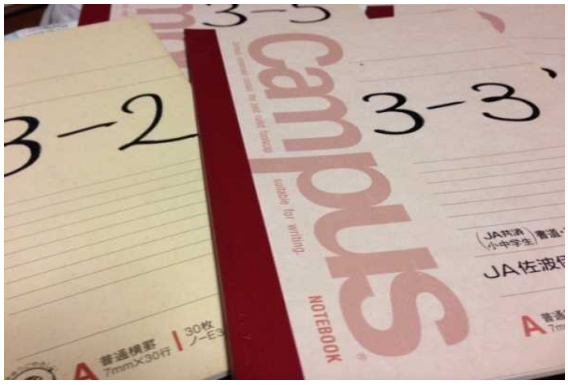
(2)活動の流れ

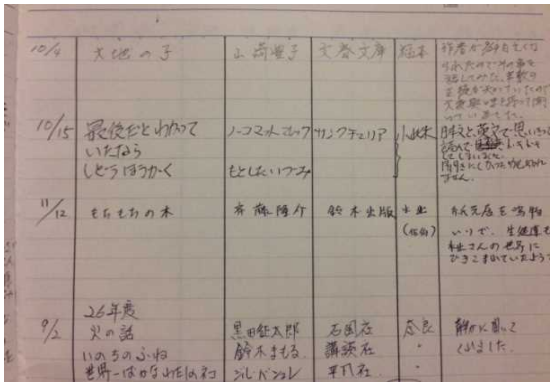
当日はボランティア控室に 8 時 20 分までに集合し、全員揃った事を確認してそれぞれの担当教室へと向かいます。この時、急に欠席者がわかる場合もあるので、クラス割

り当てのない補員も控室に配置します。どの学年も、一クラス一人で担当するので、必ず補員となる人を置き、急に欠席になったボランティアの代わりができるようにしています。読み聞かせができないクラスをなくすためにも補員の確保は不可欠です。急に欠席となった場合で、補員が該当クラスでの読み聞かせを以前に行っていたときには、そのクラスを担当していない者になるよう調整変更し、同じ人が同じクラスに入らないように配慮します。読み聞かせ終了後は、クラス毎に用意した記録ノートに作品名、作者、出版社、その日の感想等を記入してから解散します。記録ノートは発足当初から続いており、年度をまたいでテキストが重ならないかチェックできるだけでなく、情報交換の機能もあります。私たちボランティア一人一人にとって、このノートはとても貴重であり、本の情報はもちろんですが、例えば、このクラスは日差しが本に反射しやすいのでカーテンを閉めてから始めるのがよい、廊下の反響が強いので前後のドアを閉めました、など、クラスの特徴を知ることもできます。

(3)使用した本

実際にどんな本を読んでいるか、記録ノートより、ほんの一例を紹介します。





平成２６年　９月２日（3 年）の例

・はしれさんてつきぼうをのせて	国松俊英	ＷＡＶＥ出版
・いのちのふね	鈴木まもる	講談社
・いのちをいただく	内田美智子・坂本義喜	講談社
・もったいない	プラネットリンク編	マガジンハウス

(4)生徒の反応

初めのうちは、どの学年の生徒もおとなしく聞いてくれてはいますが、興味なさそうに下を向いて眠そうな顔をしていました。気恥ずかしさもあるのか、読み聞かせに向かう姿勢が今ひとつという感じでした。しかし、回を重ねるごとに顔を上げて集中し、聞

く姿勢は積極的になりました。重い内容は重く受け止め、楽しいものは反応しながら盛り上がって聞けるようになりました。読み聞かせが終わった後、廊下で本のタイトルや作者を尋ねる生徒や「また来てください、楽しみにしています。」と町で会った時に挨拶してくれる生徒も出てきました。学年を問わず、どんどん興味を持ってくれるようになり、日々、やりがいが増しています。

(5)アンケート調査結果

このレポートを作成するにあたり、初めて読み聞かせに対する生徒の気持ちや変化を知るためにアンケートを実施しました。(中学での)読み聞かせ経験のない１年生対象に、初回（回答数 224）と６回目実施後（回答数 219）の２回行って比較しました。

平成 26 年 5 月　第一回アンケート：平成 26 年 7 月第二回アンケート

あなたは三中で行っている「読み聞かせ」を楽しみにしていますか？	
1 回目	楽しみにしている　79%　　楽しみにしていない　21%
2 回目	楽しみにしている　81%　　楽しみにしていない　19%

あなたは読書が好きですか？	
1 回目	好き　81%　　嫌い　19%
2 回目	好き　83%　　嫌い　17%

◎「読み聞かせ」を楽しみにしている理由には以下のようなものがありました。

・今まで知らなかった本を知ることができる。　・知識が広がる。

・本に引き込まれる。　・学級が静かになる。

・聞いていて面白い。　・何を読んでくれるか毎回楽しみ。

４　成果と課題

１年生に行ったアンケートで、「読み聞かせを楽しみにしている」と回答した生徒が少し増えたということは、中学校でも読み聞かせを経験することによって、積極的に楽しもうと受け止める生徒が確実にいるということです。初めは机を後ろに下げて床に自由に座るスタイルにとまどったり、落ち着かなかったりする様子でしたが 、すぐに慣れ、ボランティアを迎える準備を整えて待ってくれるようになりました。そして、何よりもうれしいことは、多くの生徒が目を輝かせて話を聞いてくれることです。また、生徒自

身がクラスを落ち着いた雰囲気にしてくれると、ボランティアはすぐに集中してテキストに向かうことができ、さらに、コミュニケーションもスムーズにとれてお互い気持ちのよい朝の 15 分を過ごすことができます。「読み聞かせ」の効果だけでなく、地域の様々な大人が校内に入り生徒と接するということも良い点だと思います。

「読書が好き」と答えた生徒が増加し、読み聞かせを通して、その意義や価値が実感できるようになるとともに、自分の思いや考えを深められるようになるとすれば、うれしいことです。

アンケートを実施したことで改めて課題として考えさせられた点は「読み聞かせ」について家族で話題にすることがまだ少ないということです。思わず家で話したくなるような、生徒の心に深く残る読み聞かせをしたいと思うと同時に、今後は中学校での読み聞かせ活動の周知を積極的に行っていきたいと考えています。また、広くボランティアを募ることなどの改善を行いながら、読み聞かせの話題をきっかけに家庭での会話が増えることも期待しています。

5　おわりに

赤ちゃんから小学生までの読み聞かせを子育てとともに経験し、大切に思い、ボランティアを続けてきました。そして、次第に小学生までででなく、もっと長く読み聞かせをしたいと考えるようになりました。中学生になっても、読み聞かせからはたくさんの事が得られると思います。聞くことにより集中力や表現力がつきます。みんな一緒に聞くことで感動を共有できます。本のメッセージを絵と文章、読み手の表現などから、より深く受け取ることができます。もちろん新しい本との出会いや知らない世界の扉を開く機会にもなるでしょう。

「おはようございます」と自分の背丈を越すような大きな生徒さんたちの元気な挨拶に迎えられて登校します。小さな子どもに対するよりも、背筋がしゃんと引き締まる思いがします。今日の本はよく聞いてもらえるだろうか、締めの一冊は笑える絵本がいいかな…などと毎回悩みますが、心もからだも大きく成長し変化する大切な時期、部活や勉強で忙しい日々に、読み聞かせが、生きていくための心を癒しはぐくみ、充実した毎日の手助けに少しでもなれたらと願っています。「あなたに夢と希望を届けたい！！」を合い言葉に、地域の子どもたちの健やかな成長を願いながら、これからも北郷の会を続けていきます。